ピースあいち・メールマガジン
第115号　2019年6月25日号
「所蔵品から」関連画像
本文はこちら

毎日新聞1944年10月13日

今度はロンドンの番

獨、近く本格的爆撃断行を言明

室寢俄に下地々悠

'いわるけ行てき生構結でれて'

言爆下のベルリンを描く

スイス人の體驗記

疎開から歸る

焔の中を避難

情熱で立直る

うどんの配給

重寶な獨の「應急住宅」

隣組の手で簡單に

大東亞建設戰

華北交通撰逸好調

滿蒙義鎮技術提携

梁院本會議

廿一日から三日

食糧增産供出

駐在事務所

中國地方行政協議會

反樞軸の内幕

軍需會社增産

手當擴充考慮

南方自給快調

小業・長官

毎日新聞1944年10月13日

昭和十九年十月十三日（金曜日）
毎日新聞（日刊）

台灣を無差別爆撃

優勢の敵機と激戰 既に百機を撃墜

敵大機動部隊南下す

大本營發表

（昭和十九年十月十二日十七時二十分）本十月十二日七時頃より優勢なる敵機台灣に來襲、十五時頃尚彼我交戰中なり、我部隊の收めたる戰果中十三時迄に判明せる撃墜敵機約百機なり

十日朝沖縄島に來襲した敵機動部隊はさらに南下し十二日早朝より台灣に攻撃を加へ來つた、來襲機動部隊は太平洋方面の優勢なる勢力であつて、その來襲機數は極めて多數であり、十五時ごろ至るもなほ台灣上空に激烈な航空戰が続けられてゐる、この機動部隊による來襲に呼應し支那大陸よりも一部長距離爆撃機が參加してゐる、今回の來襲においてもまづ注目すべきは南西諸島および台灣のいづれにおいても敵は悪辣なる無差別爆撃に出てゐることである、軍事施設、港灣施設などは當然としても一般都市住宅街をもほとんどそれが主目的のごとくに數次にわたり波狀的に言目爆撃を加へ市街を焦土とし、わが同胞を出來るだけ多く爆死せしめんとする殘虐な意圖を明確に露呈してゐる、しかもその際に絶叫にも日の丸の標識をつけた飛行機を混入するの手段に出てゐる、敵の戰略的狙ひとしては次に迫つた比島作戰に備へてわが比島方面への交通遮斷を狙つてゐるものと考へられるが、また同時に都市の焦土爆撃によりわが戰意の沮喪を狙ふといふ神經戰の意味が多分に含まれてゐり、このことについてはすでにわれわれは長陵、衡陽方面における在支米空軍の支那民衆に対する無差別爆撃によりその片鱗を知つてゐたのであるが、今回の來襲においてさらに如實にその正体と米軍の野獣的戰法をさらにはつきりとつかんだわけで、その怒りをもつとも近い好機に彼等に叩きつけねばならぬ

大陸からも飛來

卑劣！機翼に日の丸

硫黄島、ハルマヘラ等に連襲

【南西太平洋基地特電十二日発】一、ハルマヘラ島北部に十日午前B25、P38など廿四機が來襲した

十、ニューギニア西南カイマナ

一擊屠る

バリ

【バリックパパン十一日発同盟】現地軍報道部約百機バリックパパン地区に來襲せしが、撃墜五機を撃破、B24廿五機を撃破して撃退せり、わが方敵機の未帰還

好機・敵内線に迫る

今ぞ復讐の大鐵槌

ヌンホル島（ニューギニア）痛爆

敵兩飛行場十個所を炎上

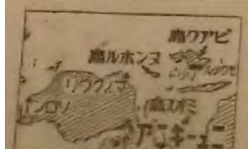
九日午前三時ごろわが航空部隊はニューギニア、ヌンホル島に

ペ島の敵機逐次

モ島敵司令所

ベリリュー島　においてはその後艦砲射撃、爆撃ともにほとんどなく敵機は機ねが解であるが飛行場の敵機は昨夕第四十一日には延べ約四十機、艦載機、偵察機等が襲撃してゐる、コスソル地とペリリュー島間の敵艦船の動きは依然盛で敵は次の攻撃を準備中の如くである、ペリリュー島東方海面に十日の夜間砲が流れ敵は海岸を攻撃してゐる

工場事業場に



毎日新聞
見本刊錄
萩原化學工業所

毎日新聞1944年10月17日

決死・海鷲出撃

生徒出身將校も勃起

夜道ばかり

軍醫候補生召募要領

長し・稲刈に御精進

學童疎開その後

暗過ぎるお寺の電燈

那覇空襲體驗記

一軒一軒に燒夷彈

執拗八時間　親呼ぶ子をも掃射

次の目標

何よりも水筒と食糧

危い家のなか　必ず廣場の掩蔽壕へ

防空戰訓

二條の跡

この基地の

毎日新聞1944年10月27日

毎日新聞
昭和二十年三月廿七日
（火曜日）

敵機動部隊なほ近接、行動

沖縄本島を艦砲射撃

弧状連島の突破企つ

敵機動部隊の一部は廿四日沖縄本島に近接、三次にわたり艦砲射撃を加へ來つた（合北）

今次敵機動部隊の出撃は、ともかく本土防衛力をひきつけ、南方諸島から護衛する第五航空艦隊を誘致し、マリアナ諸島に侵入した、マリアナ諸島は廿四日の本土空襲に呼応する機動部隊の出撃は一旦と言はれ、廿五日にはいよいよ本土に接近し、同日二、三百機の艦上機をもつて攻撃、廿六

毎日新聞1944年10月29日

昭和二十年三月廿九日（木曜日）　毎日新聞（日刊）

沖縄本島砲爆續く

空母十數隻 上陸の野望露骨

敵米軍は廿五日慶間群島の一部に足をかけ、遂に沖縄本島への上陸企圖を明かに露呈し來つた、すなはち敵機動部隊は去る十八、十九の両日九州、四国、南西方面に攻撃を加へわが航空戦力の撃滅をはかつたのち南方海上に退避したが、その後損害を被つた正規空母に代るに護衛空母をもつて廿三日には正規空母八隻、特空母四、五隻その他各種艦船をともなふといふ大勢力をもつて南西諸島附近海面に再び出現、同日朝から主として沖縄本島に一部はその周辺各島に艦上機を放つて來襲、わが迎撃隊の戦力低下を狙ひつつあつたが、廿四日からは主として沖縄本島南部に対し猛撃とともに艦砲射撃を開始、廿五日にいたるやその一部の兵力を慶良間列島中の渡嘉敷島（東西三・南北二キロ）阿嘉島（東西三・南北二キロ）座間味島（東西四・半南北四キロ）の三島に上陸を開始し、同日中に少數ながら一部兵力の揚陸に成功した、これを迎へてわが航空部隊をはじめ陸海軍特攻隊は直ちに敵甲であり、早くも大本營発表のごとき戦果をあげてゐるが、敵はその後も引續き主として沖縄本島南部に砲爆撃を實施中である

敵上陸した渡嘉敷、阿嘉、座間味三島をはじめ慶良間列島の大半の島は極めて小さく戦略的に殆ど價値なき島であり、敵がこれら雪の島に上陸したその意圖は目指す沖縄本島の中間的な威力偵察的作戦行動であると見られ、すでにウルシー泊地やレイテ湾よりの敵の艦船はこの一両日慌しき動きをみせてをり、近く敵の沖縄本島作戦は展開されるものとみられてゐる、したがつて敵の本格的な沖縄本島への上陸作戦は今後續行される敵の來襲状況によつてその規模が判明するわけである

更に空母五隻撃沈か

戦果擴大せん

伸び切つた敵米軍の攻撃末端を叩くべき絶好の機會はいよいよ來た、敵の南西諸島上陸作戦開始に備り備を持してこれを待機したわが海空の將兵は猛然と戦闘の火蓋を切り今なほ戦闘を続けつつある、すなはちわが航空部隊は敵機動部隊出現の報に接し敵艦上機の迎撃、敵機動部隊攻撃に必死の活動をつづけてゐるが廿七日朝六時廿分から四十分の間にわが特別攻撃隊行動隊長、宮崎陸軍大尉の指揮する十機は慶良間列島附近の敵艦船群に殺りかり猛然体當りを敢行、轟沈五隻、撃破五隻といふ十機十艦を屠るの壮烈なる戦果を挙げた、また今回の大本營発表には含まれてはゐないが廿六日午前四時ごろ別のわが特攻隊が慶良間附近の敵機動部隊に突入したが、その日は戦果判明せず廿七日わが方の飛行機の偵察によれば前日まで大型航空母艦二隻、小型母艦四隻から

東沙島艦砲撃

南支那海に巡艦三隻

【大陸基地廿八日発電通信班】敵機動部隊の沖縄諸島上陸企圖に連動して敵の海軍部隊は廿五日以来の動が顕著視されてゐたが、敵巡洋艦三隻は廿六日早朝東沙島に近接、同島に艦砲射撃を加へた

沖縄作戦の一翼

マリアナ基地に四百機が待機

沖縄方面に対する上陸作戦に協力するためマリアナ方面のB29約百五十機が廿七日午前十時ごろ、B29約百五十機は廿七日午前十時ごろ、B29約百五十機はマリアナ方面のB